

---

静岡市協働パイロット事業  
「子ども食堂」実態調査  
報告書

---

平成 28 年

静岡市子ども食堂ネットワーク

# 目 次

## I. 調査概要

1. 調査目的
2. 調査期日
3. 調査対象「子ども食堂」数
  - ①調査依頼数と調査実施数(全国・静岡県内)
  - ②調査協力を断られた理由
  - ③調査実施「子ども食堂」一覧
4. 調査方法
5. 調査項目
6. 報告書を見る時の注意事項

## II. 調査結果

1. 開催場所
2. 開催スケジュール
3. 開催周知の基本的考え方、具体的な方法
4. 実費負担の考え方、金額
5. 食事提供(食事メニュー作成の考え方、食品アレルギーへの配慮等)
6. 生活相談を行う場合の取り組み方針、人員配置等
7. 自主学習の支援や体験活動の提供など、利用者が楽しく安心して過ごせる居場所の提供に関する取組方針
8. 運営体制(人員)の確保、人数構成、専門職等の配置状況
9. ボランティアの活用についての基本的考え方、活用状況
10. 安全の確保(食品衛生管理、利用者の帰宅時の安全確保、事故発生の緊急対応に関する取組方針及び具体的な内容)  
衛生管理利用者の帰宅時の安全確保、事故発生時の緊急対策等に関する取組方針、具体的方策
11. 食材の確保
12. 資金の確保
13. プライバシーや人権への配慮の基本的考え方、具体的方策  
個人情報管理、法令遵守に関する考え方、具体的な研修内容
14. 運営の意義と課題
15. 行政、企業などとの役割分担についての考え方
16. 食事以外の実施事項
17. 利用者数、年齢、家庭状況、利用意向等
18. 運営者の声
19. 「子ども食堂」が地域の子育て支援に資するとすればどのような点か
20. 「子ども食堂」が子どもの貧困対策に資するとすればどのような点か
21. 利用状況、利用者の声(静岡市子ども食堂ネットワーク組織内調査結果)

### Ⅲ. 課題と提案

調査結果、考察をもとに見えた課題と、課題に対する提案事項

附表

調査票

# I . 調查概要

## 1. 調査目的

「子ども食堂」を運営する際に判明した課題・問題点等を静岡市に報告書として提出することにより、本市内及び全国の「子ども食堂」の運営の現状を把握する。

## 2. 調査期日

平成 28 年 9 月 14 日～平成 29 年 2 月 28 日

## 3. 調査対象「子ども食堂」

全国 165 の「子ども食堂」を対象に調査を依頼

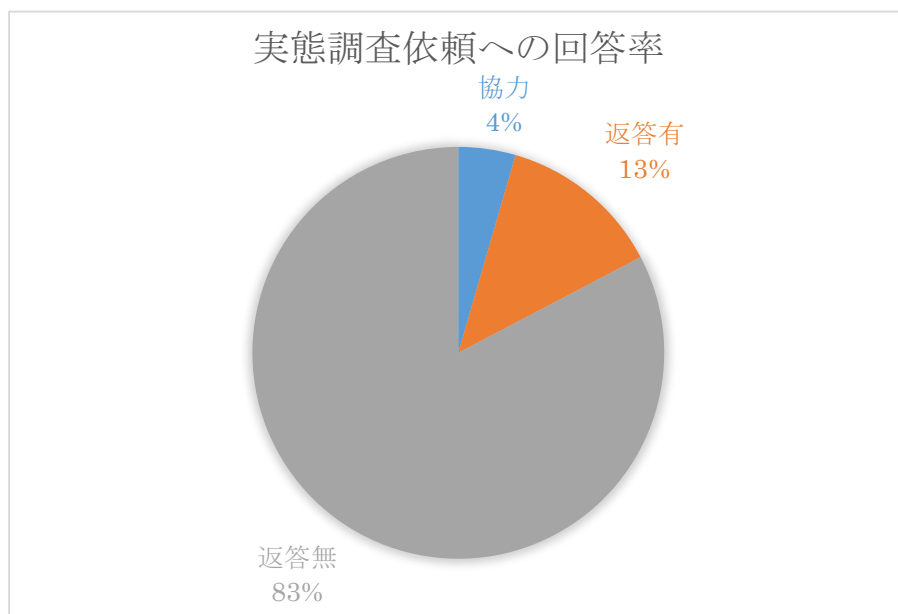
### ①調査依頼数と調査実施数(全国・静岡県内)

#### 《全国》

実態調査協力	7
返答あり	20
返答無	138
合計	165 団体

#### 《静岡県内》

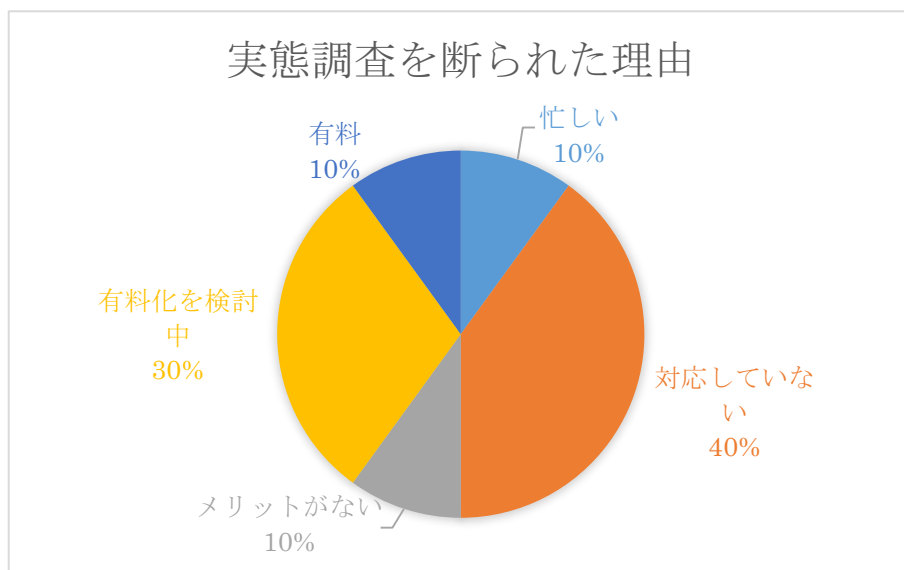
静岡市	9
富士市	1
三島市	1
沼津市	1
牧之原市	1
御前崎市	1
熱海市	1
合計	15 団体



## ②調査協力を断られた理由

返答のあった 20 団体を対象に調査

忙しい	2
対応していない	8
メリットがない	2
有料化を検討中	6
有料	2



※「対応していない」の回答理由には、『アンケートなどの依頼が多すぎて対応しているとキリがないから』という回答もあった。

### ③調査実施「子ども食堂」一覧

今回、調査協力が得られた「子ども食堂」

開催地	子ども食堂名	運営組織
静岡市	そらいろ食堂	一般社団法人てのひら
静岡市	くさなぎこども食堂	個人
静岡市	竜南ひまわり子ども食堂	静岡市子ども食堂ネットワーク
静岡市	丸子せんマル子ども食堂	静岡市子ども食堂ネットワーク
静岡市	麻機ベーテル子ども食堂	静岡市子ども食堂ネットワーク
静岡市	飯田子ども食堂	静岡市子ども食堂ネットワーク
沼津市	子ども食堂ぶどうの木	子ども食堂沼津レインボーフォーラム

#### 4. 調査方法

メール・電話

メールにて挨拶文・依頼文と実態調査票データを添付

#### 5. 調査項目

「子ども食堂」の活動実態全般にわたる調査及び利用者の声、利用状況に関する調査

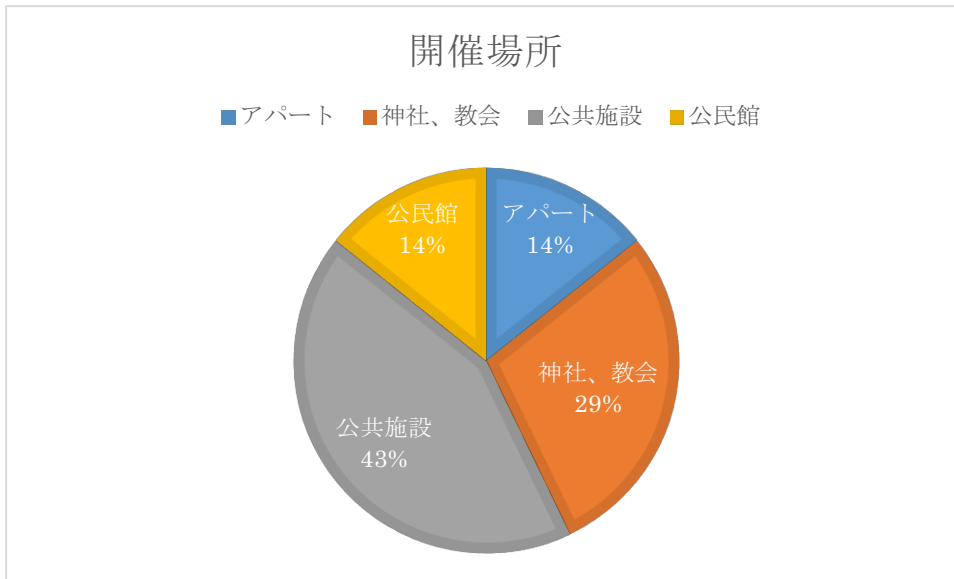
#### 6. 調査報告を見る時の注意事項

- ①質問に対する回答が重複してしまっていた箇所は、結果項目に重ねて記載
- ②附表にて、「子ども食堂」ごとの回答を掲載
- ③表は回答に記載された文章から該当する答えを抽出し作成した。
- ④質問事項の文章内容が回答者に読み取りづらかったため、意図からずれた回答もあった。

## II . 調查結果



# 1. 「開催場所」



分類	開催
アパート	1
公共施設	3
神社、教会	2
公民館	1

※公共施設は調理室がある会場である。

公共施設（生涯学習センターや交流センター）や集会場、教会など、会場をその都度借りて運営している子ども食堂が 9 割となっている。

## 【考察】

「子ども食堂」の開催場所の条件として

### ①『調理場』の有無

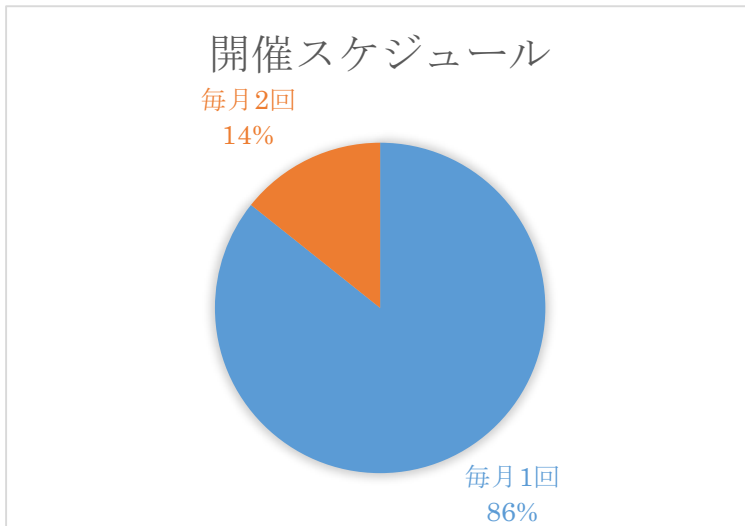
保健所から、調理設備（洗い場、ガスコンロ、冷蔵庫）があることが指導される。

### ②施設管理者が「子ども食堂」について理解しているかどうか。

### ③その他

- ・立地…子ども達が通いやすい場所かどうか。
- ・駐車場があること…食材など、たくさんの荷物を運びこむボランティアと利用者の駐車場があることが望ましい。

## 2. 開催スケジュール



開催スケジュール	こども食堂
毎月1回	6
毎月2回	1

### 【考察】

開催回数に影響する要因

①運営スタッフ、ボランティアの人員不足。体力・時間の問題  
定期的に協力してくれる主体となるボランティアの人員不足

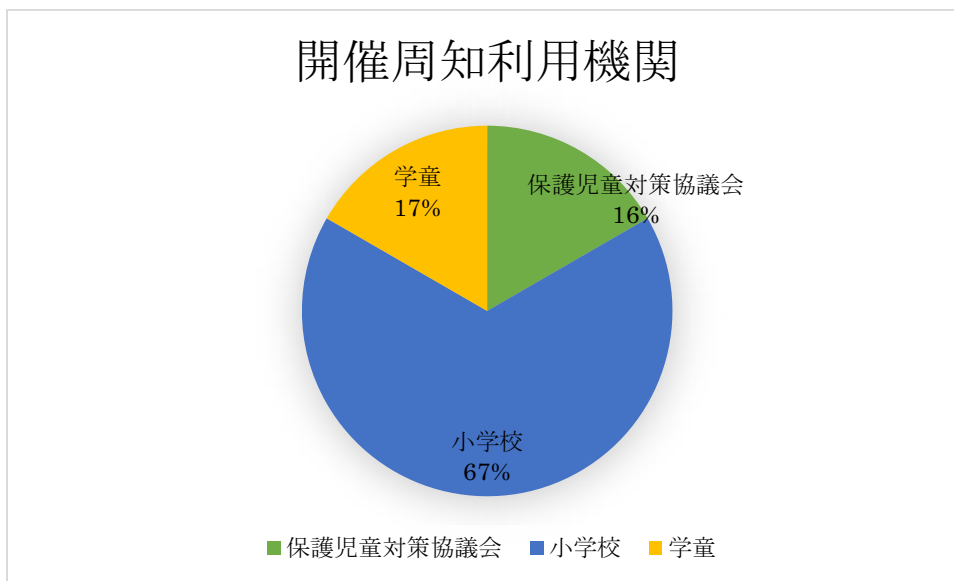
②運営費の負担

決まった援助や補助を受けていない個人や「子ども食堂」をきっかけに活動し始めた任意団体などは、常に援助や支援を求め続けなければならない、自己負担のみでの運営継続は難しく開催回数を月に1度とできる範囲で無理のないように運営している。

### 3. 開催周知の基本的考え方、具体的な方法

公的機関	ブログ	チラシ	考え方
1 要保護児童対策地域協議会	6	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者のみ（生活困窮者）</li> <li>・会場の近辺に住む子どもや大人</li> <li>・運営組織に一任</li> </ul>
4 小学校へちらし配布			
1 学童クラブへチラシ設置			

※ブログ欄は facebook、Twitter などのネット環境の利用



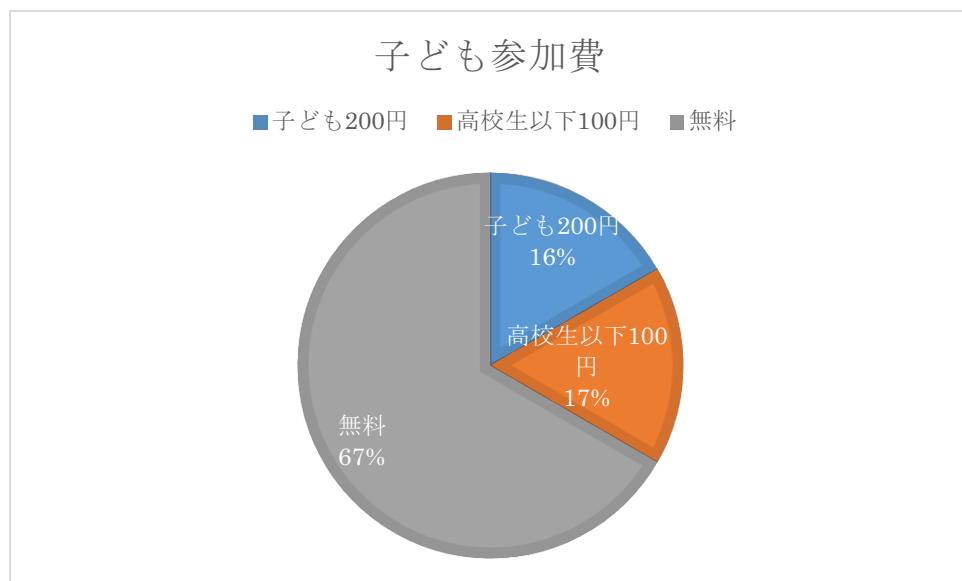
#### 【考察】

周知への考え方や取り組みは、対象者を絞っているかどうかで大きく異なる。

対象者のみに周知する場合、専門の機関の協力を得ることができれば、開催内容や案内を対象者に届けることができるが、対象者をその地域に住む児童や保護者など不特定多数を対象としている場合、その内容が児童や保護者にとって興味を示す内容かどうか周知に大きく左右することになる。

## 4. 実費負担の考え方、金額

おとな		こども		考え方
300 円	6	200 円	1	負担がない範囲での実費負担。生活状況により考慮
		100 円 高校生以下	1	ボランティアからも食事代を徴収し運営費積立
		無料	4	運営組織でサポート ボランティア、運営組織が負担 寄付、自費、参加費



### 【考察】

「こども食堂」では、保護者などから参加費を徴収することは一般的で、児童からも参加費を徴収するかは、賛否が大きくわかれるところである。

生活困窮支援という視点から見れば「貧困対策としての「こども食堂」の取り組みに、参加費を徴収するのはおかしいのでは？困窮しているから支援が必要なのだろう」という声も一部ではある。しかし、寄付金や協賛金だけで運営継続していくのは難しく、参加費を集めることで、すべて自費で持ち出しするということがないように、運営を継続していくということも考えなくてはならない。

また、無料という考え方には、「過剰なサービス」ではないか？という意見もあり、何を目的として「こども食堂」を運営するのか？という、対象者や開催目的を運営側がどのように考えているかで意見は個々に分かれる。

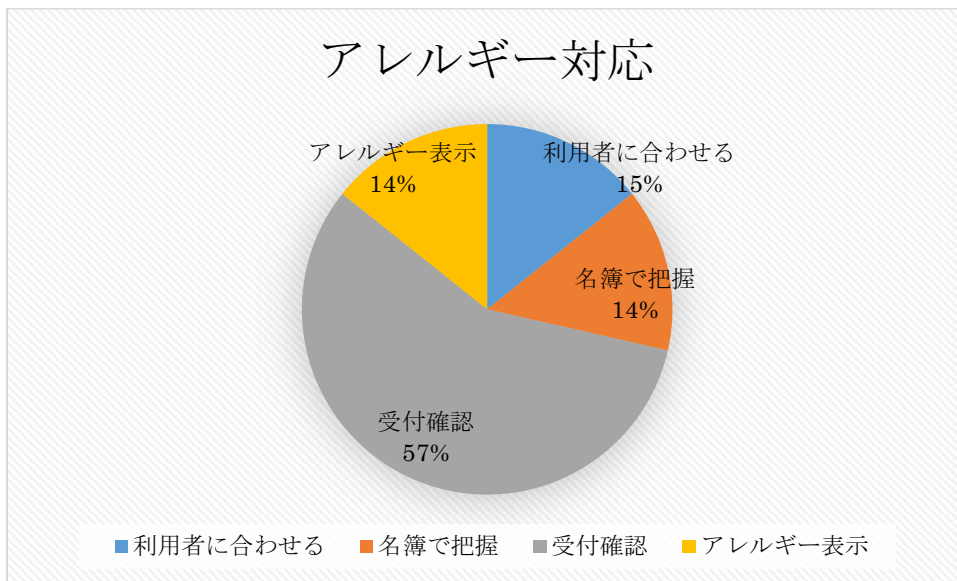
静岡市こども食堂ネットワークではお手伝いすれば「子ども無料」で統一

家庭や生活環境に問題のある児童、そうではない児童も区別することなく食事をしに来て欲しいと考えている。そのため、生活困窮世帯の児童にも気軽に立ち寄ってもらえるよう、後片付けや掃除などお手伝いすれば「子ども無料」となっている。

みんなが無料なら自分だけ特別な扱いをされることはなく、そうした児童間の差を作らないようにという思いもある。

## 5. 食事提供（食事メニュー作成の考え方、食品アレルギーへの配慮等）

アレルギー対応		考え方
利用者に合わせて配慮	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作り、家庭的な料理</li> <li>・その時々で手に入る食材で考案</li> <li>・アレルギーの食材は避ける</li> <li>・地元で採れた肉や野菜を使った手作りの料理</li> <li>・その都度、ボランティアさんで考える</li> <li>・栄養のバランスを考え、子どもが食べやすいメニュー</li> <li>・子どもたちが「おいしい」と言って食べてくれるメニュー</li> <li>・予算内</li> </ul>
名簿に記入し把握	1	
受付で確認	4	
アレルギー表示	1	



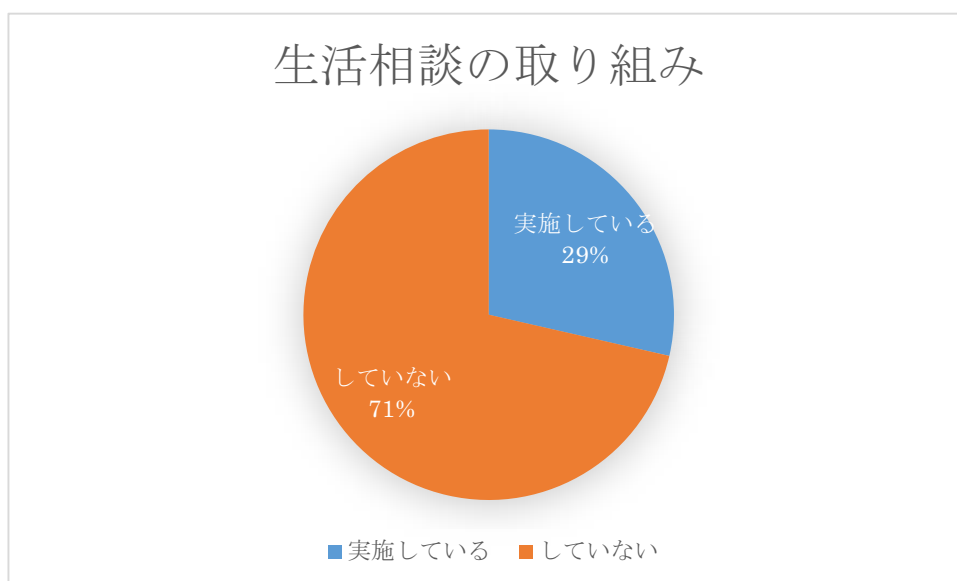
### 【考察】

アレルギーに対応したメニューを作るには、専門の知識が必要となるので、事前に確認したり、原材料を表示し、事故を避けるようにしている。

また、アレルギーを誘発する食材を除いていくと、提供できる食材も非常に限られる。

## 6. 生活相談を行う場合の取り組み方針、人員配置等

生活相談	人員	考え方
2	専門スタッフ 交通係 受付 食事配膳 衛生管理者 他の団体 専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものみでなく、保護者・家族支援を関係機関と連携し、地域包括支援を目的として取り組んでいる</li> <li>・人員の選任は要件を満たした者を配置。</li> <li>・今後必要になれば考える</li> <li>・コミュニティづくりがメインのため考えていません</li> <li>・今後検討</li> <li>・市のサービスを調べる</li> </ul>



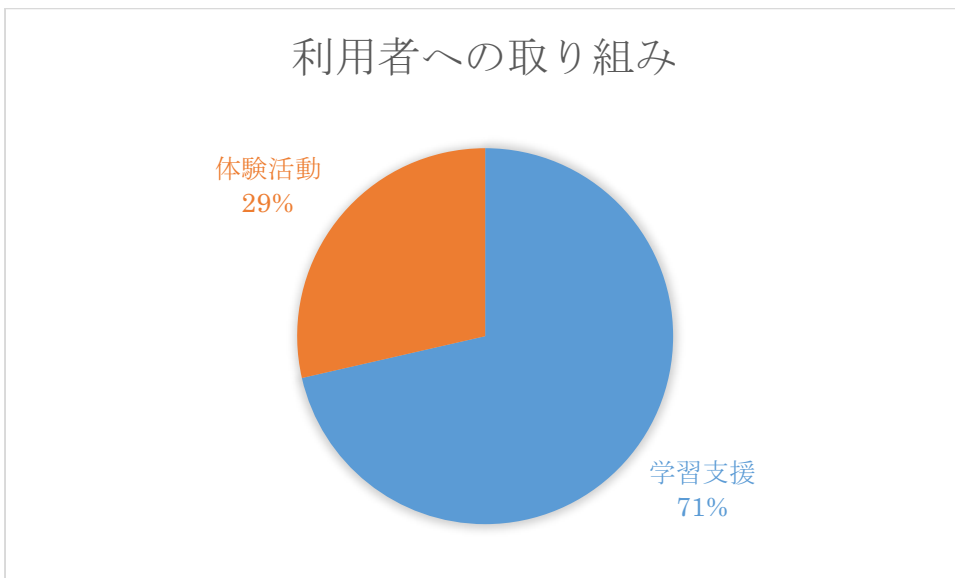
### 【考察】

生活困窮者支援を目的としていない「子ども食堂」には生活相談に応じる術が今はない、現状では必要となっ  
てから調べるという判断の下、児童たちの様子を見ながら、気になる児童を見かけた時の対応について考える。

必要な時に、生活相談や要保護児童への対応などの、相談窓口になる専門機関と「子ども食堂」との連携が必要  
である。

## 7. 自主学習の支援や体験活動の提供など、利用者が楽しく安心して過ごせる居場所の提供に関する取り組み方針

自主学習支援	体験活動	取り組み方針
5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな人間関係との出逢いを活用</li> <li>・アットホームな場づくり</li> <li>・子どもに意見を聞いて反映</li> <li>・今後検討</li> <li>・学生ボランティアによる学習支援</li> <li>・「楽しくない場所には人は集まらない」</li> <li>・今後の課題</li> </ul>



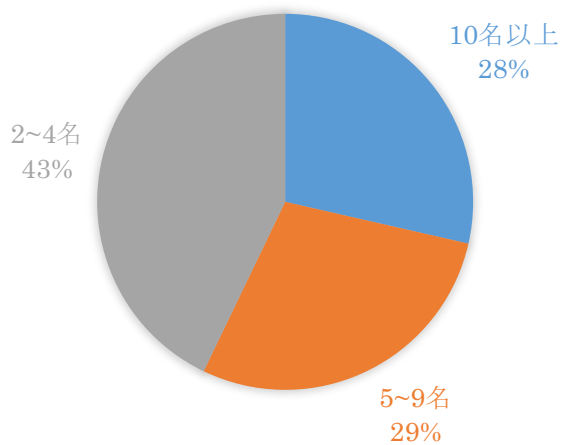
### 【考察】

生活困窮世帯でなくとも、児童を塾に行かせられる世帯と、経済的に困難な世帯では学力の格差が生まれる。「子ども食堂」では児童達の自主性を大切にしながら、無料学習支援には積極的に取り組んでいる現状である。体験活動も児童達の多様な経験や、将来への道標となるよう様々な企画を取り入れるよう検討している。

## 8. 運営体制（人員）の確保、人数構成、専門職等の配置状況

主要スタッフ	学生	専門	一般
10名以上で構成 2団体	大学生 専門学校生	社会福祉士 学校教員 調理師 管理栄養士 民生委員 学校給食経験者 教員	会社員 主婦 地元の高齢者
5~9名で構成 2団体			
2~4名で構成 3団体			

主要スタッフの人数



### 【考察】

運営人員、ボランティアの確保は常に課題である。

継続的に参加できて、主旨を理解し、それを反映した言動ができる人員は簡単にはみつからない。

専門職の経験や知識がある人材となると、さらに貴重となっている。



## 9. ボランティアの活用についての基本的考え方、活用状況

### 考え方

- ・要件を満たす資質のあるボランティアを育成する
- ・会場周辺の住民に参加してもらい子どもとの関係性を築いて欲しい
- ・調理担当は経験者をお願いする
- ・子ども達に伝えたいことがある人をお願いする
- ・来られるときに来てもらう
- ・出来る事を出来る人が無理なく

### 活用状況

- ・サービス利用者のボランティア参加
- ・ボランティア自身にとっても「居場所」となる
- ・参加費 300 円を払ってもらい、参加してもらっている
- ・料理教室、ワークショップ
- ・配膳等の手伝い
- ・ミーティングを行い、意見を出し合う

### 【考察】

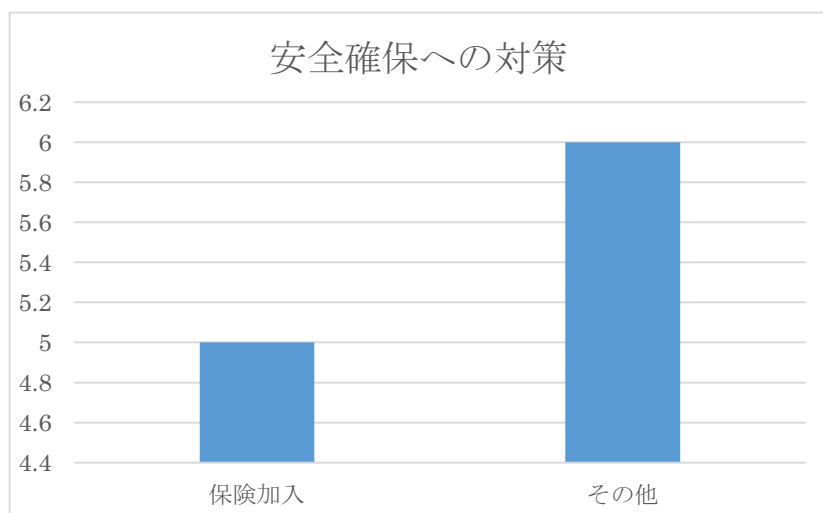
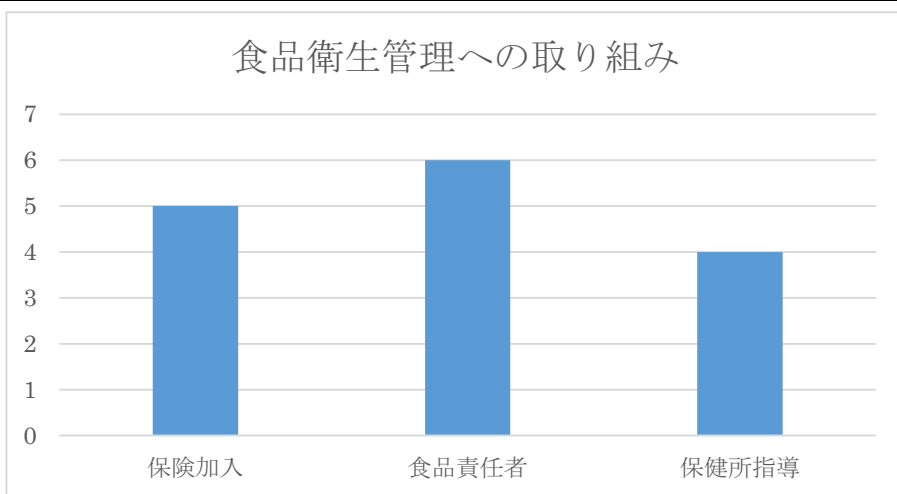
より多くの方にボランティアに参加してほしいという思いは強いが、それぞれの「子ども食堂」がどんな子どもたちを対象にして開催しているのかを、まずは理解してもらう必要がある。

理解を深めるため、定期的にミーティングを開催したり、ボランティアの育成に力を入れている「子ども食堂」もある。

# 10. 安全の確保（食品衛生管理、利用者の帰宅時の安全確保、事故発生の緊急対応に関する取組方針及び具体的な内容）

## 衛生管理利用者の帰宅時の安全確保、事故発生時の緊急対策等に関する取組方針、具体的方策

食品衛生管理		安全確保		取組方針	取組内容
保険加入 (食中毒)	5	保険加入 (事故、怪我)	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動には危険が潜んでいるという認識</li> <li>リスクについて考え検討していく</li> <li>手洗い、消毒の徹底</li> <li>調理担当者への衛生指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「危機管理マニュアル」を作成</li> <li>救急セットを用意</li> <li>スタッフの送迎</li> <li>最新の注意を払って調理</li> <li>会場内の整理整頓</li> <li>他子ども食堂より応援指導</li> <li>帰りが遅くなる子は保護者に迎えに来てもらう</li> <li>「衛生管理マニュアル」を作成</li> </ul>
食品衛生責任者	6	その他	6		
保健所の立入検査 保健所の指導相談 食材の検査	4	保護者の迎え 交通指導 開催時間の調整			



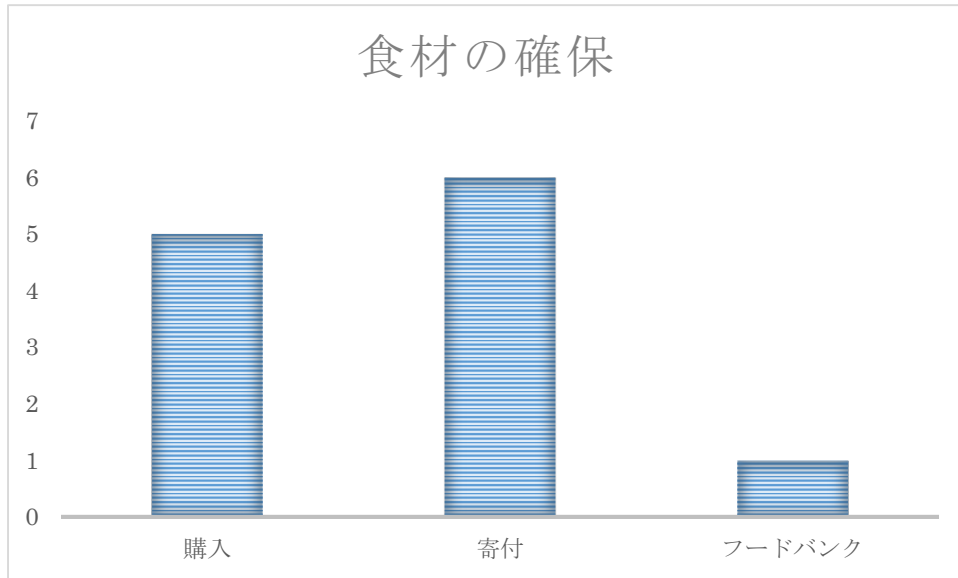
### 【考察】

食中毒、事故、怪我などがあつた時に備え保険加入が必要。

保健所の立入検査や衛生指導を自主的に行い、「子ども食堂」を安全に運営することが何より大事である。

現在「子ども食堂」に関する法律や制限がない為、各主催者がどこまでを予測して対応しているかで異なる。

## 1 1. 食材の確保



※主に購入食材と寄付品で賄う ※寄付は主に個人、企業などから

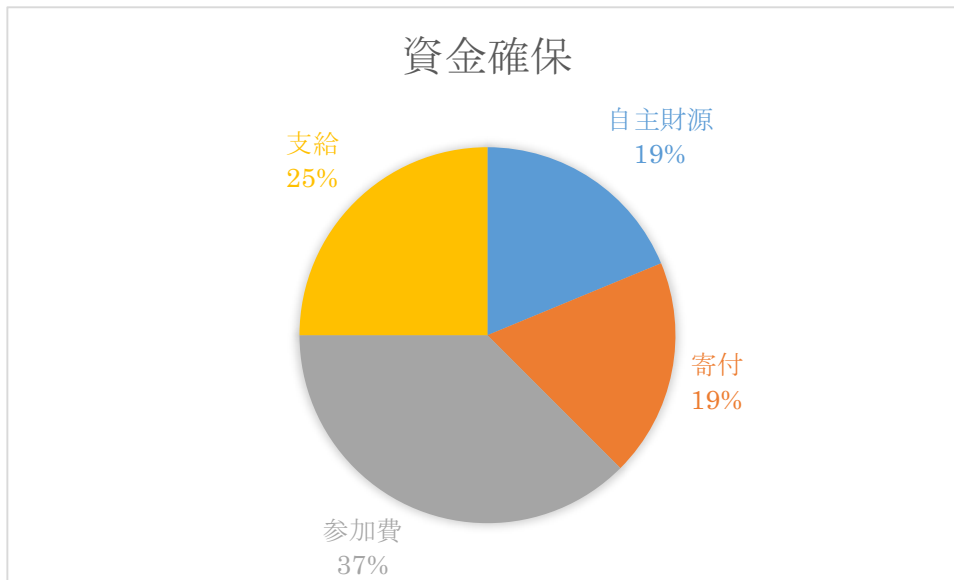
### 【考察】

寄付や支援が潤沢ではない場合、常に自主財源や参加費も合わせて補わなくてはならない、特に「食材費」を使うので、食材の支援が得られなかったときは負担額が大きくなる。

## 12. 資金の確保

自主財源	寄付	参加費	支給
3	3	6	4

※支給—静岡市子ども食堂ネットワークからのサポート



### 【考察】

資金があれば、食材支援が得られなかったときでも購入して対応することができる。

「子ども食堂」の運営には、食材費だけでなく、保険代、消毒液などの消耗品や、会場費、チラシの印刷代など様々な経費がかかる。

そのため、主催者は自費負担も合わせ、資金の確保が課題である。

## 13. プライバシーや人権への配慮の基本的考え方、具体的方策

### 個人情報の管理、法令遵守に関する考え方、具体的な研修内容

考え方	方策／個人情報の管理	研修内容
<ul style="list-style-type: none"><li>・日本国憲法、子どもの権利条約などの理念を遵守</li><li>・利用すると特別な家庭の子だと見られてしまう偏見をなくしたい</li><li>・「子ども食堂」は特別な施設ではなく皆が利用できる場所という周知徹底</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己評価や研修体制作りを拡充していく</li><li>・写真は参加者の顔が写っていないものを使用する</li><li>・参加者名簿は運営メンバーの自宅で保管</li><li>・チラシの中身、文章に気をつける</li><li>・静岡市子ども食堂ネットワークで管理</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・経験豊富なスタッフがボランティアを育成</li><li>・学習会の開催</li><li>・外部研修への派遣など</li><li>・行っていない</li><li>・静岡市子ども食堂ネットワークに任せている</li><li>・私的なことは聞かないよう気をつける</li></ul>

※静岡市子ども食堂ネットワークでは、個人情報の管理はサポートしている子ども食堂ごとにまとめている。

写真掲載時には、モザイク処理など利用者の顔が判別できないようにして配慮している。

個人情報に関しては、写真、名簿の管理など、各団体目的に関わらず慎重に取り扱っている。

## 14. 運営の意義と課題

### 運営の意義

- ・生活困窮者支援に対し重点化していこうとする日本の施策動向に即応する
- ・市民生活の充実に寄与
- ・今後の行政の事業の拡充に向けてのソーシャルアクションとして
- ・近隣の大人と子どもの関係性を築き、それが子どものセーフティネットとして機能していくこと
- ・食の大切さを伝えること（食育の一環）
- ・人との繋がりを深めること
- ・児童保護者への食育活動
- ・子育てに地域の人が携わることで、地域交流や活性に繋がる
- ・ベール構想(麻機遊水地を中心とした障害者支援と麻機の環境保全)と麻機地域住民との相互理解と連携
- ・地域の新しいコミュニティの一つ
- ・地域の問題の早期発見、解決
- ・地域交流
- ・地域の人たちの協力で子どもを中心に人が集まる楽しい居場所

### 課題

- ・理念を具体的実践の中で一つひとつ具現化していくこと
- ・家庭や学校以外の居場所を必要とする子どもが参加できているとはいえない
- ・地域の問題を汲み取る組織作り
- ・清水北部交流センター利用の高齢者と利用児童との交流活動
- ・麻機地域に必要とされる形を作っていく
- ・ベール構想と、地域の子育て、或いは地域の連携
- ・資金、ボランティアの確保
- ・丸子地域の活性や地域団体との連携
- ・お年寄りの参加をどのようにしていくか
- ・地域自治会との交流、連携
- ・運営体制の確立

## 15. 行政、企業などとの役割分担についての考え方

### 行政

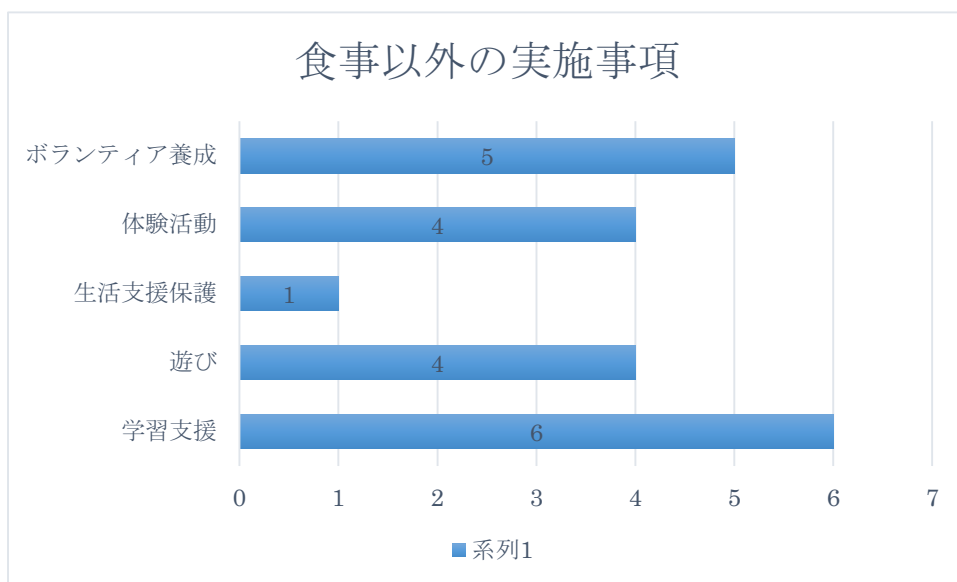
- ・「公民の役割分担のもとでの新たな協働・連携体制作り」ができることが必要不可欠
- ・子ども食堂を必要とする子どもや親の情報の共有
- ・子ども食堂に適した保険の制度を整える
- ・行政の方針に沿った子ども食堂への支援
- ・行政関係者に現場に来てほしい
- ・活動グループと地域自治会との連絡調整
- ・子ども食堂と小学校と教育委員会との連絡調整
- ・開催場所を静岡市ホームページでの告知
- ・貧困対策支援の子ども食堂と地域交流、子育て支援を目的とした子ども食堂のパンフレット作成
- ・行政が理解を深めること
- ・民生委員などの研修に取り上げて欲しい

### 企業

- ・企業はできることで支援を
- ・企業研修の一環で社員のボランティア参加
- ・子ども食堂サポート企業としてのグループ化

## 16. 食事以外の実施事項

学習支援	遊び	生活支援保護	体験活動	ボランティア養成
6	4	1	4	5



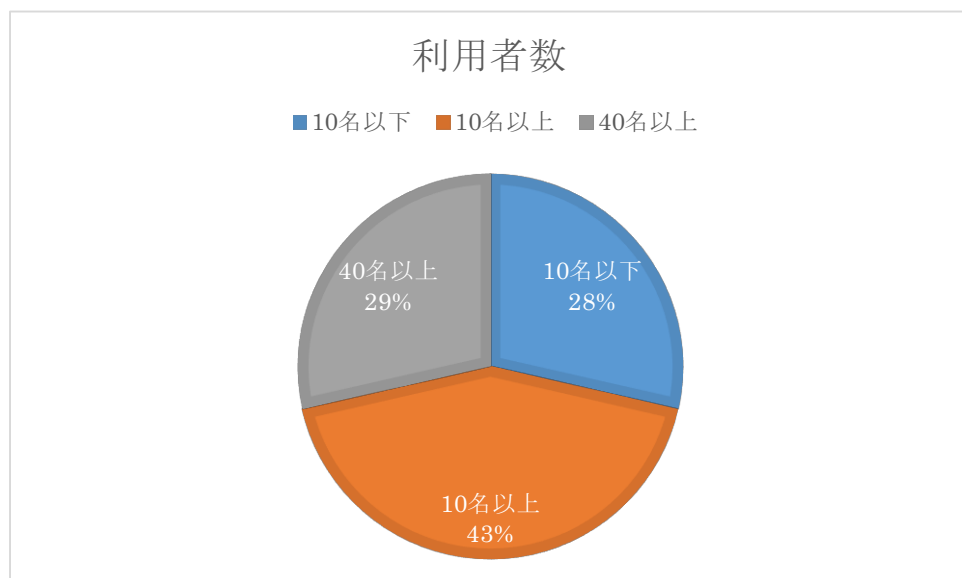
### 【考察】

食事を提供するだけでなく、学習支援や交流、体験活動などを行い、児童を取り巻く環境や経験などより良い効果を与える活動を目指す団体が多い。



## 17. 利用者数、年齢、家庭状況、利用意向等

利用者数		年齢	家庭状況、利用意向
10名以下	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前～高校生</li> <li>・10代の若者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮が厳しい家庭</li> <li>・様々なルートにて、ニーズ発見</li> <li>・「みんなでご飯食べたい」</li> <li>・幅広く</li> </ul>
10名以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳児～中1、成人</li> <li>・幼児～小学6年生</li> </ul>	
40名以上	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子</li> </ul>	



### 【考察】

利用者の家庭状況を明確に把握できるのは、対象者を特定している「子ども食堂」の特徴である。その他の「子ども食堂」では、利用者すべての家庭状況を把握するのは難しい。

## 18. 運営者の声（運営に携わってよかったこと、改善したい事）

よかったこと	改善したいこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出逢う機会を与えられていること</li> <li>・ 当事者との関わりの意義を実感している</li> <li>・ 子どもとおとなの交流</li> <li>・ スクールソーシャルワーカーとの繋がり</li> <li>・ [おかわり]「おいしかった」の声が嬉しい</li> <li>・ 子どもたちの笑顔が嬉しい</li> <li>・ 地域の保護者との交流</li> <li>・ 地域自治会に理解を得られた</li> <li>・ 学生ボランティアの参加が増えた</li> <li>・ 地域の子ども達と顔なじみになれたこと</li> <li>・ 自身の子どもたちも楽しみにしている</li> <li>・ ボランティアとしての喜びを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当事者が必要としている支援サービスの創出</li> <li>・ 運営メンバーに地域住民を</li> <li>・ 週1回で開催できる体制作り</li> <li>・ 草薙で拠点を増やす</li> <li>・ 貧困や虐待などに対応</li> <li>・ 食材について伝える機会を作りたい</li> <li>・ 食材費を抑えられるようにする</li> <li>・ 食の生産者との連携</li> <li>・ 子ども食堂が行える様々な活動を行政や地域の方に理解してもらいたい</li> <li>・ 子どもが増えたので事故や怪我がないように注意</li> <li>・ ボランティアを増やしたい</li> </ul>

### 【考察】

人との繋がりや、児童からの好意的な態度対応など、「子ども食堂」を運営する上で、達成感や満足度得ることは非常に重要である。

高齢者や、大学生、若者など、「子ども食堂」に参加すること児童や地域から必要とされる喜びを感じる人も多く、そうした意味で運営者側も携われる。

## 19. 「子ども食堂」が地域の子育て支援に資するとすればどのような点か

### 子育て支援資する点

- ・ 支援とサービスを併せ持つコミュニティの拠点となる取組
- ・ 子どもとおとなの顔が見えることで、見守り機能が高まる
- ・ 地域が子育て家庭を補助できる
- ・ 子どもたちに食事のマナーや楽しさについて教える
- ・ お母さんたちに食事メニューについて考える機会になる
- ・ 地域社会が子どもたちのことを考える良い機会になる
- ・ 学校以外での「生活の場」で得られる児童と保護者と地域の交流
- ・ ストレスの多い子育て中にご飯を作らなくていい日があればホッとする
- ・ 地域の居場所、世代交流の場
- ・ 子育てママの居場所
- ・ よろず相談所
- ・ 学校、行政が子ども食堂と連携していくこと

### 【考察】

「子ども食堂」が広がり、児童の成長や環境、子育てなどを考える機会が保護者世代、若年世代、高齢者世代など活動を通じて様々な世代の共通の話題となる。

携わる人たちが増えることで、子育てへの理解と関心が深まり、地域のコミュニティが広がることで、今まで孤立しがちだった児童や保護者が、問題や悩みを相談できる拠点となりえる。

## 20. 「子ども食堂」が子どもの貧困対策に資するとすればどのような点か

### 貧困対策に資する点

- ・生活困窮者を支える「新たな絆」の創出
- ・生活困窮者支援の1ツールとして活用・運営
- ・食事の支援
- ・貧困家庭の悩み吸い上げ
- ・行政や支援団体との連携
- ・まずは気が付いてあげること
- ・貧困対策には取り組んでいない
- ・食事提供
- ・貧困対策に限らず、問題のある家庭環境にいる児童の状況把握
- ・子どもが1人で来て無料でおなかいっぱいになれる
- ・かけこみ寺
- ・学習支援
- ・食糧支援

### 【考察】

貧困対策として食事提供する場合、週1や月1の開催が、貧困対策として必要な回数を行えているか疑問である。

しかし、まずはこうした無料または低額で食事ができることで、貧困対策という問題に多くの人の意識が集中したことは良い影響だと言える。

今後、開催箇所や回数が増えることで、より大きな効果が得られる。

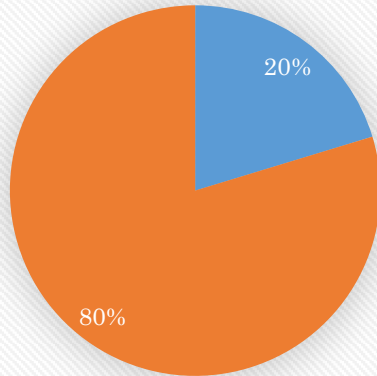
## 21. 利用状況、利用者の声

(静岡市子ども食堂ネットワーク組織内調査結果)

### 【利用者数（2016年度開催合計）】

	おとな	おとな月平均利用者数	子ども	子ども月平均利用者数
竜南ひまわり子ども食堂 4月～12月	61	7	243	27
丸子せんマル子ども食堂 9月～12月	20	5	137	34
飯田子ども食堂 10月～12月	18	6	48	16
麻機ベーテル子ども食堂 9月～12月	23	6	51	13
合 計	122	—	479	—

子ども食堂利用者割合



■おとな ■子ども

## 【利用者の声】

今回、口頭にて利用者(おとな)に調査協力を依頼

協力者：5名

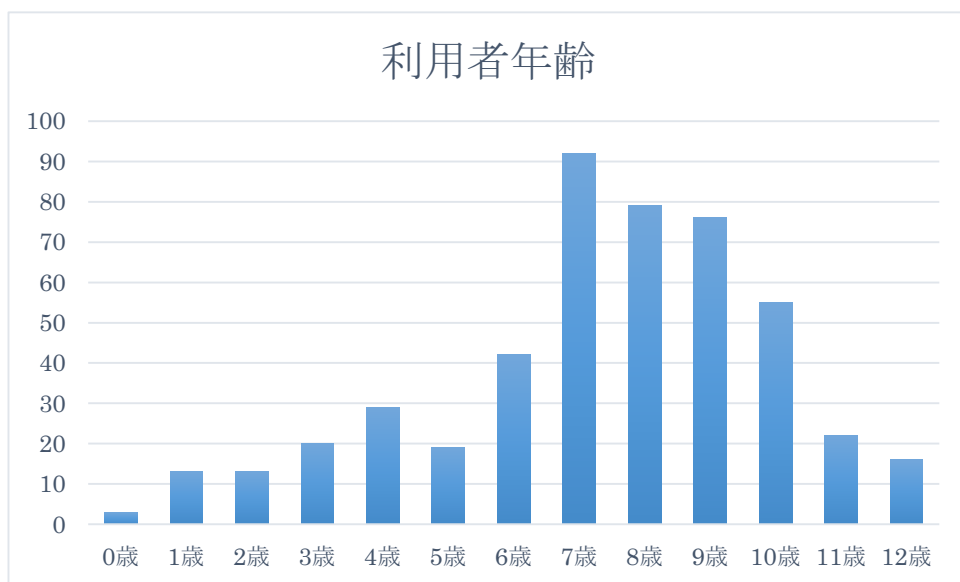
	よかったこと	改善してほしい事	利用回数	子ども
孫の付き添い60代 息子夫婦共働き	ここに来ると皆と楽しそう 一人っ子なので、賑やかな食卓を 経験できて有難いことです	特になし	2回目	小学生1人
主婦(専業)	先輩お母さんに話が聞ける 小学校入学前に色んな子どもたち のいる環境に慣らしておきたい	開催回数が増えたら嬉しい	毎月	乳児1人 幼児1人
主婦(パート)	帰ってから食事の支度をしなくて 済むので助かる	開催回数が増えるともっと 助かります	毎月	幼稚園1人 小学生1人
主婦(パート)	友達と一緒にご飯が食べられる	開催回数を増やしてほしい	毎月	小学生1人
主婦(パート)	子どもが宿題を終わらせてくる 時間まで子どもを預けておける	ずっと続けてなくさないで ください	毎月	小学生2人

### 【利用者(子ども)年齢】

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
竜南ひまわり子ども食堂 4月～12月	2	8	7	11	17	6	14	54	32	30	44	15	3
丸子せんマル子ども食堂 9月～12月	1	0	5	7	7	6	17	24	33	22	6	2	7
飯田子ども食堂 10月～12月	0	0	1	2	1	5	10	6	7	10	1	2	3
麻機ベーテル子ども食堂 9月～12月	0	5	0	0	4	2	1	8	7	14	4	3	3
合 計	3	13	13	20	29	19	42	92	79	76	55	22	16

保護者の方に年齢確認は行っておりません

※年齢を聞かれることに抵抗のある女性が多い為



## Ⅲ. 課題と提案



# 調査結果、考察をもとに見えた課題と、課題に対する提案事項

## 課題 1：開催会場

「子ども食堂」の開催に適した会場の選定。

### 提案

- ①静岡市内で「子ども食堂」が開催しやすいよう自治会や小学校、公共施設の管理担当課への協力依頼をすること
- ②「子ども食堂」の開催受け入れが可能な公共施設のリストの作成と提供をすること。

## 課題 2：開催周知

周知は利用者を増やすだけでなく、開催地域で協力を得る為にも必要である。

### 提案

- ※地域に定着するには、回覧物や小学校に配布物閲覧資料などが効果的。
- ①自治会、小学校への協力依頼をすること。
  - ②相互理解を深める橋渡しとして、講演会の開催や、自治会・教育委員会と会談する機会を設けること。

## 課題 3：食事提供

子ども達に食事を提供するなかでアレルギーに関しては今後もっと慎重に対応する必要があるが、現状、事故が起きない配慮をすることでしか対応できていない。

### 提案

- ①食品アレルギーに関する指導や相談ができる専門機関の紹介、案内、派遣をすること。
  - ②事故が起こったときの対処の指導に看護師や専門職の人員の派遣をすること。
- ※専門職の人員派遣は現場での事故発生を防ぐうえで大いに役立つ。

## 課題 4：運営体制

主要スタッフ、ボランティアの確保は常に課題で、体調不良などでのスタッフの欠員に余裕を持って対応できない現状である。

### 提案

- ①新人研修や現場への視察派遣をすること。
- ②専門機関への協力依頼、告知協力をすること。

## 課題 5：安全確保

安全確保について法律や制限がないため「子ども食堂」ごとに対応が異なっている。

### 提案

- ①子ども食堂への衛生管理、危機管理指導、講習をすること。
- ②現場視察をすること。
- ③保健所との自主的な連携をすること。
- ④保険加入への指導をすること。

## 課題 6：食材の確保

食材費の負担が軽減されるよう、常に支援を求めている。

### 提案

- ①食材の生産者や団体企業、または食材を取り扱う企業団体との連携を推進すること。
- ②生産過剰や廃棄前の野菜や果物の提供の呼びかけをすること。

## 課題 7：プライバシーや人権への配慮、個人情報の管理

一般的にできる範囲での配慮はされているが、法令遵守に関する考え方や、具体的な研修を行えるほどの知識や考えが及ばないでいる「子ども食堂」が多い。

### 提案

各団体にプライバシーや人権、個人情報、法令遵守の教育や、ガイドラインなどの説明をすること。

# 附 表

## 1. 開催場所

子ども食堂名	開催場所	分類
そらいろ食堂	常設している活動拠点の一室	アパート
くさなぎこども食堂	生涯学習交流館、シェアハウスなど	公共施設
竜南ひまわり子ども食堂	白髭神社	神社
丸子せんマル子ども食堂	丸子本町集会所	公民館
麻機ベーテル子ども食堂	スマイル麻機	公共施設
飯田子ども食堂	静岡市清水北部交流センター	公共施設
子ども食堂ぶどうの木	沼津岳南教会	教会

## 2. 開催スケジュール

子ども食堂名	開催スケジュール
そらいろ食堂	毎月1回土曜か日曜
くさなぎこども食堂	毎月第3火曜日
竜南ひまわり子ども食堂	毎月1回おもに第4金曜日
丸子せんマル子ども食堂	毎月1回
麻機ベーテル子ども食堂	毎月1回
飯田子ども食堂	毎月1回
子ども食堂ぶどうの木	毎月第2第4土曜日

### 3. 開催周知の基本的考え方、具体的な方法

子ども食堂	公的機関	ブログ	チラシ	考え方
そらいろ食堂	○ 要保護児童対策地域協議会	—	—	対象者のみ（生活困窮者）
くさなぎこども食堂	—	○	○	会場の近辺に住む子どもや大人
飯田子ども食堂	○ 小学校へちらし配布	○	○	運営組織に一任
麻機ベーテル子ども食堂	○ 小学校へちらし配布	○	○	運営組織に一任
丸子せんマル子ども食堂	○ 小学校へちらし配布	○	○	メンバーの都合に合わせる
竜南ひまわり子ども食堂	○ 小学校へちらし配布	○	○	小学校、知人への周知
子ども食堂ぶどうの木	○ 学童クラブへチラシ設置	○	○	—

※飯田、麻機、竜南、丸子の周知は静岡市子ども食堂ネットワークが行っている。

※小学校へのちらしは全校生徒へ配布している。

※ブログ欄は facebook、Twitter などのネット環境の利用

### 4. 実費負担の考え方、金額

子ども食堂	おとな	こども	考え方
そらいろ食堂	300 円	200 円	負担がない範囲での実費負担。生活状況により考慮
くさなぎこども食堂	300 円	100 円 高校生以下	—
飯田子ども食堂	300 円	無料	ボランティアからも食事代を徴収し運営費積立
麻機ベーテル子ども食堂	300 円	無料	運営組織でサポート
丸子せんマル子ども食堂	300 円	無料	—
竜南ひまわり子ども食堂	300 円	無料	ボランティア、運営組織が負担
子ども食堂ぶどうの木	—	—	寄付、自費、参加費

※質問事項の把握の仕方が違うため、回答にバラつきが出ている。

## 5. 食事提供（食事メニュー作成の考え方、食品アレルギーへの配慮等）

子ども食堂	アレルギー対応	考え方
そらいろ食堂	○ 利用者に合わせて配慮	手作り、家庭的な料理
くさなぎこども食堂	○ 名簿に記入し把握	その時々で手に入る食材で考案 アレルギーの食材は避ける
飯田子ども食堂	○ 受付で確認	地元で採れた肉や野菜を使った手作りの料理
麻機ベーテル子ども食堂	○ 受付で確認	その都度、ボランティアさんで考える
丸子せんマル子ども食堂	○ 受付で確認	栄養のバランスを考え、子どもが食べやすいメニュー
竜南ひまわり子ども食堂	○ 受付で確認	子どもたちが「おいしい」と言って食べてくれるメニュー
子ども食堂ぶどうの木	○ アレルギー表示	予算内

## 6. 生活相談を行う場合の取り組み方針、人員配置等

子ども食堂	生活相談	人員	考え方
そらいろ食堂	○ 子ども 保護者	○ 専門スタッフ	・子どものみでなく、保護者・家族支援を関係機関と連携し、地域包括支援を目的として取り組んでいる ・人員の選任は要件を満たした者を配置
くさなぎこども食堂	×	×	コミュニティづくりがメインのため考えていません
飯田子ども食堂	×	×	今後必要になれば考える
麻機ベーテル子ども食堂	×	×	今後検討
丸子せんマル子ども食堂	×	×	市のサービスを調べる
竜南ひまわり子ども食堂	×	交通係 受付 食事配膳 衛生管理者	—
子ども食堂ぶどうの木	○	×	—
		他の団体 専門家	

7. 自主学習の支援や体験活動の提供など、利用者が楽しく安心して過ごせる居場所の提供に関する取り組み方針

子ども食堂	自主学習支援	体験活動	取り組み方針
そらいろ食堂	○	○ 食事作り	新たな人間関係との出逢いを活用 アットホームな場づくり
くさなぎこども食堂	○	—	子どもに意見を聞いて反映
飯田子ども食堂	検討中	○	今後検討
麻機ベーテル子ども食堂	○	検討中	学生ボランティアによる学習支援
丸子せんマル子ども食堂	○	検討中	—
竜南ひまわり子ども食堂	○	検討中	「楽しくない場所には人は集まらない」
子ども食堂ぶどうの木	—	—	今後の課題

8. 運営体制（人員）の確保、人数構成、専門職等の配置状況

子ども食堂	主要スタッフ	学生	専門	一般
そらいろ食堂	13名以上 リーダー、マネージャーを配置	○ 大学生	○ 社会福祉士 学校教員など	○
くさなぎこども食堂	県大生 10名 卒業生 1名	○ 大学生	—	—
飯田子ども食堂	5~6名	○ 大学生	○ 調理師 管理栄養士	○
麻機ベーテル子ども食堂	3名	○ 大学生	—	○
丸子せんマル子ども食堂	2名	○ 大学生	—	○
竜南ひまわり子ども食堂	6~7名	○ 大学生	○ 民生委員 学校給食経験者 調理師 教員など	○
子ども食堂ぶどうの木	3人	—	—	—

## 9. ボランティアの活用についての基本的考え方、活用状況

子ども食堂	考え方	活用状況
そらいろ食堂	要件を満たす資質のあるボランティアを育成する	サービス利用者のボランティア参加 ボランティア自身にとっても「居場所」となる
くさなぎこども食堂	会場周辺の住民に参加してもらい 子どもとの関係性を築いて欲しい	参加費 300 円を払ってもらい、参加してもらっている
飯田子ども食堂	調理担当は経験者をお願いする	—
麻機ベーテル子ども食堂	子ども達に伝えたいことがある人 をお願いする	料理教室、ワークショップ
丸子せんマル子ども食堂	来られるときに来てもらう	配膳等の手伝い
竜南ひまわり子ども食堂	出来る事を出来る人が無理なく	ミーティングを行い、意見を出し合う
子ども食堂ぶどうの木	—	—



10. 安全の確保（食品衛生管理、利用者の帰宅時の安全確保、事故発生の緊急対応に関する取組方針及び具体的な内容）

衛生管理利用者の帰宅時の安全確保、事故発生時の緊急対策等に関する取組方針、具体的方策

子ども食堂	食品衛生管理	安全確保	取組方針	取組内容
そらいろ食堂	保険加入 (食中毒)	保険加入 (事故、怪我)	活動には危険が潜んでいるという認識 リスクについて考え 検討していく	「危機管理マニュアル」 を作成
くさなぎこども食堂	食品衛生責任者	保護者の迎え	手洗い等の徹底	救急セットを用意 スタッフの送迎
飯田子ども食堂	保健所の立入検査 保健所の指導相談 食材の検査 保険加入 (食中毒) 食品衛生責任者	保険加入 (事故、怪我)	手洗い、消毒の徹底 調理担当者への衛生 指導	最新の注意を払って調理 会場内の整理整頓
麻機ベーテル子ども食堂	保健所の立入検査 保健所の指導相談 食材の検査 保険加入 (食中毒) 食品衛生責任者	保険加入 (事故、怪我)	手洗い、消毒の徹底 調理担当者への衛生 指導	竜南ひまわり子ども食堂 より応援指導
丸子せんマル子ども食堂	保健所の立入検査 保健所の指導相談 食材の検査 保険加入 (食中毒) 食品衛生責任者	17時帰宅 保険加入 (事故、怪我)	手洗い、消毒の徹底 調理担当者への衛生 指導	帰りが遅くなる子は保護 者に迎えにきてもらう 救急箱を用意
竜南ひまわり子ども食堂	保健所の立入検査 保健所の指導相談 食材の検査 保険加入 (食中毒) 食品衛生責任者	交通係の配置 保険加入 (事故、怪我)	手洗い、消毒の徹底 調理担当者への衛生 指導	「衛生管理マニュアル」 を作成
子ども食堂ぶどうの木	食品衛生責任者	昼間開催 保護者同伴	—	—

## 12. 資金の確保

子ども食堂	自主財源	寄付	参加費	支給
そらいろ食堂	○	○	—	—
くさなぎこども食堂	—	○	○	—
飯田子ども食堂	—	—	○	○ 静岡市子ども食堂ネットワーク
麻機ベーテル子ども食堂	—	—	○	○ 静岡市子ども食堂ネットワーク
丸子せんマル子ども食堂	—	—	○	○ 静岡市子ども食堂ネットワーク
竜南ひまわり子ども食堂	○ 不足分自費	—	○	○ 静岡市子ども食堂ネットワーク
子ども食堂ぶどうの木	○ 自費	○	○	—

※静岡市子ども食堂ネットワークでは、企業協賛、個人からの寄付を運営費に充てている

### 13. プライバシーや人権への配慮の基本的考え方、具体的方策

#### 個人情報の管理、法令遵守に関する考え方、具体的な研修内容

子ども食堂	考え方	方策／個人情報の管理	研修内容
そらいろ食堂	日本国憲法、子どもの権利条約などの理念を遵守	自己評価や研修体制作りを拡充していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験豊富なスタッフがボランティアを育成</li> <li>・学習会の開催</li> <li>・外部研修への派遣など</li> </ul>
くさなぎこども食堂	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真は参加者の顔が写っていないものを使用する</li> <li>・参加者名簿は運営メンバーの自宅で保管</li> </ul>	行っていない
飯田子ども食堂	利用すると特別な家庭の子だと見られてしまう偏見をなくしたい	チラシの中身、文章に気をつける 静岡市子ども食堂ネットワークで管理	静岡市子ども食堂ネットワークに任せている
麻機ベーテル子ども食堂	「子ども食堂」は特別な施設ではなく皆が利用できる場所という周知徹底	静岡市子ども食堂ネットワークで管理	静岡市子ども食堂ネットワークに任せている
丸子せんマル子ども食堂	—	静岡市子ども食堂ネットワークで管理	静岡市子ども食堂ネットワークに任せている
竜南ひまわり子ども食堂	—	静岡市子ども食堂ネットワークで管理	私的なことは聞かないようにように気をつける静岡市子ども食堂ネットワークに任せている
子ども食堂ぶどうの木	—	—	—

※静岡市子ども食堂ネットワークでは、個人情報の管理はサポートしている子ども食堂ごとにまとめている。  
写真掲載時には、モザイク処理など利用者の顔が判別できないようにして配慮している。

#### 14. 運営の意義と課題

子ども食堂	運営の意義	課題
そらいろ食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮者支援に対し重点化していこうとする日本の施策動向に即応する</li> <li>市民生活の充実に寄与</li> <li>今後の行政の事業の拡充に向けてのソーシャルアクションとして</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念を具体的実践の中で一つひとつ具現化していくこと</li> </ul>
くさなぎこども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所同士の大人と子どもの関係性を築き、それが子どものセーフティネットとして機能していくこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や学校以外の居場所を必要とする子どもが参加できているとはいえない</li> </ul>
飯田子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>食の大切さを伝えること</li> <li>人との繋がりを深めること</li> <li>児童保護者への食育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の問題を汲み取る組織作り</li> <li>清水北部交流センター利用の高齢者と利用児童との交流活動</li> </ul>
麻機べーテル子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに地域の人が携わることで、地域交流や活性に繋がる</li> <li>べーテル構想(麻機遊水地を中心とした障害者支援と麻機の環境保全)と麻機地域住民との相互理解と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>麻機地域に必要とされる形を作っていく</li> <li>べーテル構想と、地域の子育て、或いは地域の連携</li> </ul>
丸子せんマル子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の新しいコミュニティの一つ</li> <li>地域の問題の早期発見、解決</li> <li>地域交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資金、ボランティアの確保</li> <li>丸子地域の活性や地域団体との連携</li> </ul>
竜南ひまわり子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人たちの協力で子どもを中心に人が集まる楽しい居場所</li> <li>地域交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お年寄りの参加をどのようにしていくか</li> <li>地域自治会との交流、連携</li> </ul>
子ども食堂ぶどうの木	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営体制の確立</li> </ul>

## 15. 行政、企業などとの役割分担についての考え方

子ども食堂	考え方
そらいろ食堂	「公民の役割分担のもとでの新たな協働・連携体制作り」ができることが必要不可欠
くさなぎこども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂を必要とする子どもや親の情報の共有</li> <li>子ども食堂に適した保険の制度を整える</li> <li>行政の方針に沿った子ども食堂への支援</li> </ul>
飯田子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政関係者に現場に来てほしい</li> <li>企業はできることで支援を</li> </ul>
麻機ベーテル子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政 <ul style="list-style-type: none"> <li>活動グループと地域自治会との連絡調整</li> <li>子ども食堂と小学校と教育委員会との連絡調整</li> <li>開催場所を静岡市ホームページでの告知</li> <li>貧困対策支援の子ども食堂と地域交流、子育て支援を目的とした子ども食堂のパンフレット作成</li> </ul> </li> <li>企業 <ul style="list-style-type: none"> <li>企業研修の一環で社員のボランティア参加</li> <li>子ども食堂サポート企業としてのグループ化</li> </ul> </li> </ul>
丸子せんマル子ども食堂	—
竜南ひまわり子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が理解を深めること</li> <li>民生委員などの研修に取り上げて欲しい</li> </ul>
子ども食堂ぶどうの木	今後の課題

## 16. 食事以外の実施事項

子ども食堂	学習支援	遊び	生活支援保護	体験活動	ボランティア養成
そらいろ食堂	○	—	○	○	○
くさなぎこども食堂	○	○	—	—	—
飯田子ども食堂	○	○	—	○	○
麻機ベーテル子ども食堂	○	—	—	—	○
丸子せんマル子ども食堂	○	○	—	○	○
竜南ひまわり子ども食堂	○	○	—	○	○
子ども食堂ぶどうの木	—	—	—	—	—

### 17. 利用者数、年齢、家庭状況、利用意向等

子ども食堂	利用者数	年齢	家庭状況、利用意向
そらいろ食堂	数名	就学前～高校生 10代の若者	・生活困窮が厳しい家庭 ・様々なルートにて、ニーズ発見
くさなぎこども食堂	5～10名	2歳児～中1、おとな	—
飯田子ども食堂	平均15名	幼児～小学6年生	—
麻機ベーテル子ども食堂	平均15名	幼児～小学6年生	—
丸子せんマル子ども食堂	平均45名	幼児～小学6年生	「みんなでご飯食べたい」
竜南ひまわり子ども食堂	平均40名	幼児～小学6年生	幅広く
子ども食堂ぶどうの木	15名	親子	—

### 18. 運営者の声（運営に携わってよかったこと、改善したい事）

子ども食堂	よかったこと	改善したいこと
そらいろ食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出逢う機会を与えられていること</li> <li>・当事者との関わりの意義を実感している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者が必要としている支援サービスの創出</li> </ul>
くさなぎこども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとおとなの交流</li> <li>・スクールソーシャルワーカーとの繋がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営メンバーに地域住民を</li> <li>・週1で開催できる体制作り</li> <li>・草薙で拠点を増やす</li> <li>・貧困や虐待などに対応</li> </ul>
飯田子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[おかわり]「おいしかった」の声が嬉しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材について伝える機会を作りたい</li> <li>・食材費を抑えられるようにする</li> </ul>
麻機ベーテル子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの笑顔が嬉しい</li> <li>・地域の保護者との交流</li> <li>・地域自治会に理解を得られた</li> <li>・学生ボランティアの参加が増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の生産者との連携</li> <li>・子ども食堂が行える様々な活動を行政や地域の方に理解してもらいたい</li> </ul>
丸子せんマル子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子供達と顔なじみになれたこと</li> <li>・自身の子供達も楽しみにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが増えたので事故や怪我がないように注意</li> </ul>
竜南ひまわり子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとしての喜びを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを増やしたい</li> </ul>
子ども食堂ぶどうの木	—	—

## 19. 「子ども食堂」が地域の子育て支援に資するとすればどのような点か

子ども食堂	子育て支援資する点
そらいろ食堂	・支援とサービスを併せ持つコミュニティの拠点となる取組
くさなぎこども食堂	・子どもとおとなの顔が見えることで、見守り機能が高まる ・地域が子育て家庭を補助できる
飯田子ども食堂	・子どもたちに食事のマナーや楽しさについて教える ・お母さんたちに食事メニューについて考える機会になる
麻機ベーテル子ども食堂	・地域社会が子どもたちのことを考える良い機会になる ・学校以外での「生活の場」で得られる児童と保護者と地域の交流
丸子せんマル子ども食堂	・ストレスの多い子育て中にご飯を作らなくていい日があればホッとする
竜南ひまわり子ども食堂	・地域の居場所、世代交流の場
子ども食堂ぶどうの木	・子育てママの居場所 ・よろず相談所 ・学校、行政が子ども食堂と連携していくこと

## 20. 「子ども食堂」が子どもの貧困対策に資するとすればどのような点か

子ども食堂	貧困対策に資する点
そらいろ食堂	・生活困窮者を支える「新たな絆」の創出 ・生活困窮者支援の1ツールとして活用・運営
くさなぎこども食堂	・食事の支援 ・貧困家庭の悩み吸い上げ ・行政や支援団体との連携
飯田子ども食堂	・まずは気が付いてあげること ・貧困対策には取り組んでいない
麻機ベーテル子ども食堂	・食事提供 ・貧困対策に限らず、問題のある家庭環境にいる児童の状況把握
丸子せんマル子ども食堂	・子どもが1人で来て無料でおなかいっぱいになれる
竜南ひまわり子ども食堂	—
子ども食堂ぶどうの木	・かけこみ寺 ・学習支援 ・食糧支援

「子ども食堂」実態調査  
記入できる範囲内でご協力お願い致します

団体及び活動名

開催場所
開催スケジュール
開催周知の基本的考え方、具体的な方法
実費負担の考え方、金額
食事提供（食事メニュー作成の考え方、食品アレルギーへの配慮等）
生活相談を行う場合の取組方針、人員配置等
自主学習の支援や体験活動の提供など、利用者が楽しく安心して過ごせる居場所の提供に関する取組方針



運営体制（人員）の確保、人数構成、専門職等の配置状況
ボランティアの活用についての基本的考え方、活用状況
安全の確保（食品衛生管理、利用者の帰宅時の安全確保、事故発生時の緊急対応等に関する取組方針及び具体的な取組内容）
食材の確保
資金の確保
衛生管理、利用者の帰宅時の安全確保、事故発生時の緊急対策等に関する取組方針、具体的方策
プライバシーや人権への配慮の基本的考え方、具体的方策
個人情報の管理、法令遵守に関する考え方、具体的な研修内容
運営の意義と課題
行政、企業などとの役割分担についての考え方

食事提供以外の実施事項（学習支援等）
利用者数、年齢、家庭状況、利用意向等
運営者の声（運営に携わってよかったこと、改善したいこと）
「子ども食堂」が地域の子育て支援に資するとすればどのような点か。
「子ども食堂」が子どもの貧困対策に資するとすればどのような点か。

ご協力ありがとうございました